

第60回全国植樹祭

福井市一乗谷朝倉氏遺跡



天皇皇后両陛下がお野立所にご到着時の様子

第60回全国植樹祭が6月7日、福井県福井市の一乗谷朝倉氏遺跡を式典会場に、天皇皇后両陛下のご臨席のもと開催されました。

一乗谷朝倉氏遺跡周辺は平成16年の福井豪雨災害で大きな被害を受けた地域です。「全国から数多くの暖かい手が差し伸べられたこともあり、おかげさまで、このような美しい緑を取り戻すことができました。植樹祭を通して、元気に復興した町の姿をぜひ見ていただきたい」と西川福井県知事が挨拶で述べたように、全国植樹祭の開催に当たっては、全国からの暖かい支援に感謝するとともに、緑の大切さや森林の機能の一層の理解を図る活動を推進していくことが高らかに宣言され、その取組を全国に向けて発信するものとなりました。

福 井市城戸ノ内町の一乗谷朝倉氏遺跡を式典会場、坂井市、大野市、越前町、若狭町を地域会場として、第六〇回全国植樹祭が、『未来へつなごう 元気な森 元気なふるさと』をテーマに開催され、全国・県内各地から約二万四千人が参加しました。

式典では、大会会長で衆議院議長

の河野洋平氏が、「越山若水という言葉で象徴されるここ福井は、古くから豊かな山々を守り、水との共存を図り、自然環境を守り続けてきた皆様方の努力の賜物であり、このような努力を引き継いでいくことが肝要であると思います。今祭典では、多くの子供たちが苗木を育て、県内産木材を利用したプランターカバー

の製作などを通じて参加をしてくれたこと、私はこのようなふれあいを通じて自然への理解を深め、歴史や伝統を学ぶことで、かけがえのないふるさとの森林づくりが次代の青少年に引き継がれていくことを強く願うものです」と挨拶し、今回の全国植樹祭を契機とする森林づくりの1層の拡大・継承を強調しました。

また、開催地を代表して西川一誠福井県知事は「全国植樹祭の会場であるここ一乗谷朝倉氏遺跡の城戸ノ内町は、平成一六年の福井豪雨災害で大きな被害を受けたところですが、当時、全国から数多くの暖かい手が差し伸べられ、おかげさまでこのような美しい姿を取り戻すことができました。この植樹祭を通して、元気に復興した町の姿をぜひ見ていただきたいと考えています」とした後、「福井県では『自然を知り、伝える』、『元気な森をつくる』、『花と緑にあふれるふるさとをつくる』という三つの県民運動を展開しており、このような取組が全国に広がることを期待しています」と挨拶しました。

天皇皇后両陛下のお手植え・お手播き

式典では、国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール、緑化功労、全日本学校関係緑化コンクール、福井県美しいふるさとづくり功労に関する表彰がそれぞれ執り行われ、続いて天皇皇后両陛下によるお手植えとお手播きが行われました。

お手植えでは、天皇陛下が、ウスズミザクラ、アカマツ、ケヤキの苗



天皇陛下のお手植え



皇后陛下のお手播き

木を、また皇后陛下がウワミズザクラ、トチノキ、スダジイの苗木をお手植えされました。お手播きでは、天皇陛下がヤブツバキとキタコブシを、皇后陛下はユキバタツバキとヤマボウシをお手播きされました。いずれの樹種も福井県の歴史や文化、日常生活とのかかわりが特に深いもの選ばれています。

また、式典では、次代を担う子供たちにも焦点があてられ、司会進行は県内の高校生が、合唱は中学生、吹奏楽は高校生が担当し、アトラクションの出演者も小学校の児童を中心に構成されました。

会場内の一画では、全国植樹祭六〇周年と天皇陛下御在位二〇年慶祝を記念して、「国土緑化のあゆみパネル展」のコーナーも設けられ、かつての荒廃した国土を思い起こしつつ全国植樹祭の意義を再認識する展示となり、参加者の関心を集めていました。



苗木の贈呈を受ける石破農林水産大臣（上）
国土緑化のあゆみパネル展（下）

次回開催県との連携

今回の植樹祭では、次回開催県となる神奈川県より一八台の悪路用車椅子が貸与されました。

悪路用車椅子は車輪がゴム風船のような低圧バルーンタイヤでできっており、砂地や石畳、芝生など通常の車椅子での通行が困難なところでも使用できるよう工夫されたものです。

大会参加者には事前の登録で貸与されたほか、全国から参加された方にもその場で係員が付き添う形で貸し出しが行われ、植樹祭会場の芝生や傾斜地なども無理なく移動できる足として活躍していました。